

インフルエンザワクチンとジェネリック 医薬品供給不足に関するアンケート

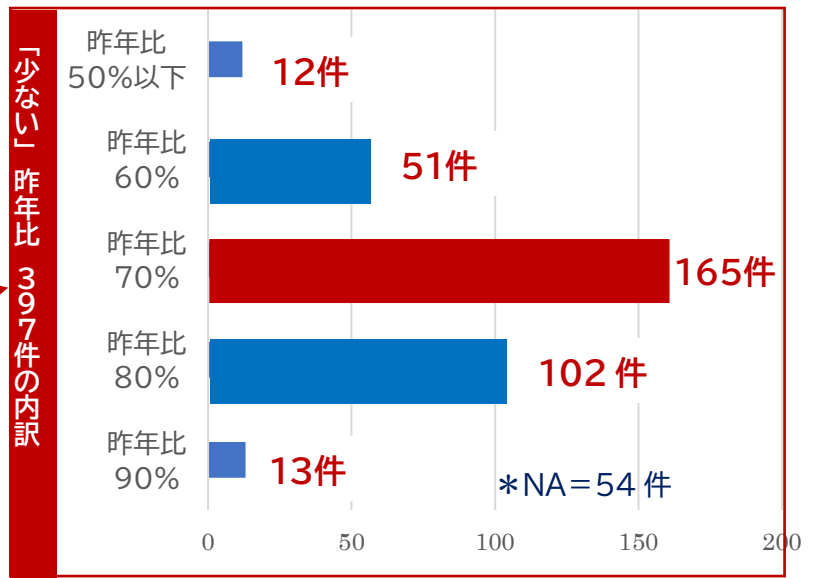
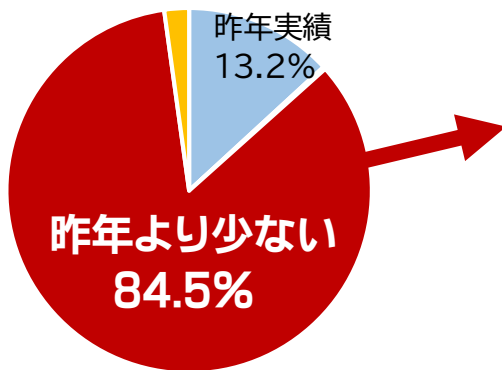
インフルエンザワクチン接種が始まった10月の中旬以降、インフルエンザワクチンの入荷が減った、見通しが立たないなどの声が寄せられています。またジェネリック医薬品の供給不足による影響も出ています。こうしたことを受けて大阪府保険医協会では、現状を把握するためにアンケートを11月8日にFAX送信(4407件)し、15日までに470件(10.7%)の回答がありました(主に院内処方156件/院外処方286件)。今後、結果をもとに医療現場の実態を厚労省にも伝えていく予定です。**2021年11月18日 大阪府保険医協会**

インフルエンザワクチン納入「減った」84.5%

インフルエンザワクチンのお荷量について卸の**当初の対応**は(卸からの伝達・予定含む)。

- 昨年より少ない **397件** *昨年比 90%=13 80%=102 70%=165 60%=51 50%=12 NA=54
- 昨年実績と言われている **62件**
- 昨年より多い **1件** NA=10件

インフルエンザワクチンの当初お荷量



インフルエンザワクチンの**現在の入荷状況**について。 *「12月まで」「目途たたない」の重複回答若干あり。

- 既にお入荷 **171件**
- 12月までにお入荷予定 **147件**
- お入荷数が減り目途がたたない **144件**

現在のインフルエンザワクチン接種対応について。 *「予約制」「あれば接種」の重複回答あり

- 予約制 **270件**
- ワクチンがあれば接種 **201件**
- 今季は終了した **7件**

現在の入荷状況では「お入荷の目途がたたない(少しずつしかお入らない・在庫ゼロ)」は144件(30.6%)、3割ある。「既にお入荷」(171件)、「12月までに…」(147件)の回答者でも「追加が来ない」「現在ゼロ」との意見欄への記入がそれぞれ12件ずつあり、全体的に11月上旬時点では不安定な入荷状況が一定伺える。

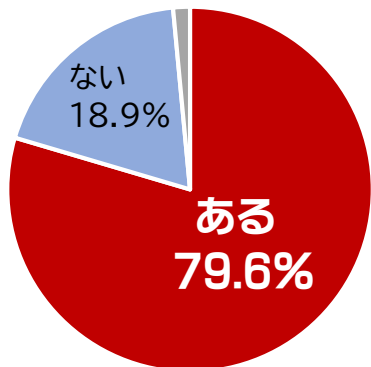
【主な意見】▼毎年10月1日より全国の自治体でワクチン接種が始まることになっているのに、なぜ毎年、お入荷が遅れたり、ワクチンが不足するのか▼マスコミはインフルエンザワクチンの推奨を言いますが、ワクチンがないのでどうしようもない▼インフルエンザワクチンが少ないのにテレビなどで“流行する”“打ちましよう”など言わないでほしい▼その他、日本脳炎、おたふくのワクチン不足を訴える声もある。

ジェネリック “納入ない・在庫ない” = 「ある」約80%

現在、納入がなくなった(減った)、薬局に在庫がない等と言われた医薬品はありますか。

■ある 374件 (医薬品上位20位 右参照)

■ない 89件



「納入がなくなった」「薬局に在庫がないと言われた」と回答した医療機関は374件約8割。具体的な医薬品名は175品目があげられており、特に骨粗鬆症に関わる薬が上位を占めている。次いで抗アレルギー薬、高血圧や消化器系の医薬品が多かった。また副作用や症状悪化、患者負担が増えるなどの影響の報告もあがっている(下記参照)。

*赤字は先発医薬品

薬品名	効能	件数
*エディロール	骨粗鬆症	41
オロパタジン	抗ヒスタミン薬	37
アルファカルシドール	骨粗鬆症	31
ランソプラゾール	胃潰瘍	27
*セレキノ	慢性胃炎	27
エルデカルシトール	骨粗鬆症	20
ビソプロロールフマル	狭心症・高血圧	19
*メインテート	狭心症・高血圧	19
*アルファロール	骨粗鬆症	18
エクセラゼ	消化異常	18
ビタミンD製剤	骨粗鬆症	17
*タケブロン	胃潰瘍	15
プラニルカスト	アレルギー性鼻炎・気管支喘息	10
アトルバスタチン	高コレステロール血症	10
カモスタット	慢性膵炎における急性症状	8
トリアゾラム	BZD睡眠薬	7
オノン	アレルギー性鼻炎・気管支喘息	7
オメプラゾール	胃潰瘍	7
ワンアルファ	骨粗鬆症	7
*セロクラール	脳梗塞	7

薬剤変更による副作用や症状悪化など深刻な影響も

(上記で「ある」と答えた先生)医薬品の供給不足でどのような影響が出ていますか。

■薬剤への切り替えに手間がかかる 214件

(具体例)

- ・患者さんへの説明時間が増えた=33件
- ・医薬品変更によるマスター変更、入力作業=23件
- ・同等医薬品の吟味、卸を探す=19件
- ・薬局からの問い合わせ=16件
- ・少量が残った薬の破棄、返品業務=2件

■他剤に切替えたことによる弊害 104件

(具体例)

- ・患者が不安、信頼関係低下(苦情)=14件
 - ・患者負担が上がった=12件
 - ・症状悪化、副作用、投薬中止など=12件
 - ・効果がない=11件
 - ・代替薬がない=4件
 - ・剤形が変わり服用しにくくなった=3件
 - ・余りの医薬品が使用できない=2件
- (症状悪化、副作用の具体例=)

■休薬せざるを得なかった 130件

■先発医薬品になり患者負担が増えた 116件

■長期処方ができなくなった 62件

■患者が後発医薬品を拒否した 26件

■加算(臨時取扱い)に該当するか不明 15件

ジェネリック医薬品不足の医療現場の影響では、薬剤の形状や色が変わることや、医薬品不足でたびたび薬剤が変更することへの不安などから患者さんに対する説明が増え、薬局からの問い合わせ、代替薬の検討などの業務が診療にも影響を与えている。

また、頭痛・めまい・眠れないなど副作用、なかには圧迫骨折、発作再発などの深刻な症状悪化の報告もあった。この他、「患者負担が増えた」との報告も少なくなかった。

安定供給への国の支援を求める声が多数

一連の問題に対して国・厚生労働省が取るべき対応について。*重複回答あり

- 単にメーカーの問題とせず安定供給への国の支援 280件
- 医薬品供給状況の迅速な情報開示 194件
- 後発医薬品の品質管理に対する規制強化 191件
- 後発医薬品の使用促進の見直し 174件
- 患者、医療機関、薬局等への影響調査 138件
- 薬価は正(低すぎる後発品、高すぎる新薬)136件

自治体が毎年10月1日よりワクチン接種の案内するのに入荷が遅れたり、ワクチンが不足するのか。ジェネリックの過度の誘導が今回の結果を招いている。

国のワクチン行政、ジェネリック誘導政策に疑問の声も

【寄せられた主な意見】

- 現状を一般の方々に向けてきちんとアナウンスして欲しい。一医院が「全国的に供給不足」と一生懸命説明しても、患者さんたちにはまだまだ理解されていない空気を感じます。
- ジェネリックの過度の誘導が今回の結果を招いている。
- 国は後発医薬品の使用を促進しているのにこのような事態にいたったのは無責任。
- 医薬品が入らないのは療養中断につながる。大変迷惑。
- 「安かろう、悪かろう」はダメ。安全にコストをかけるべき。
- 先発品の薬価を下げればよい。
- ジェネリック医薬品不足をマスコミもとりあげて欲しい。ジェネリック医薬品メーカーなどはCMで迷惑をかけていることを流してほしい。
- 後発医薬品の安定供給を強く望みます。毎日卸から「△△が入りません」と電話がかかり、仕事になりません。
- 毎年10月1日より全国の自治体でワクチン接種が始まることが決まっているのに、なぜ毎年、入荷が遅れたり、ワクチンが不足するのか
- インフルエンザワクチンは近年まれにみる不足。大変困っている。また後発品の出荷調整で日常診療に大きな支障をきたしている。
- マスコミはインフルエンザワクチンの推奨を伝えるが、ワクチンがないのでどうしようもありません。
- ワクチン確保は国策として責任を取るべき。

大阪府保険医協会はインフルエンザワクチンについて、これまでも厚労省との交渉などで発症および流行予防を考えると、11月中には必要量を供給できるようにすべきと指摘しています。今回のアンケート結果をもとに、12月上旬にも厚生労働省や新たに衆議院議員に選出された地元国会議員の方々にも医療現場の実情を伝え、ワクチンと医薬品の安定供給のための要望書を提出していく予定です。

お問合せ／大阪府保険医協会 大阪市浪速区幸町1-2-33
電話 06-6568-7721(担当=田川・坂元)

